

百舌が啼きます、青柿に。

独樂をまわそか、五色独樂、
風も出ました、稗の穂に。

独樂をまわそか、五色独樂、
きようはお留守居、庭のそと。

独樂をまわそか、五色独樂、
お午すぎても日は高い。

独樂をまわそか、五色独樂、
とうとう祭もおえました。

(大13・11)

夜中

おうちの寝間で
わたしは寝てた。
あかりが点いて
人ごえしてた。

見知らぬ部屋に
わたしは寝てる。
あかりが点いて
人ごえしてる。

どこだか知らぬ、
誰だか知らぬ。
あかりが点いて